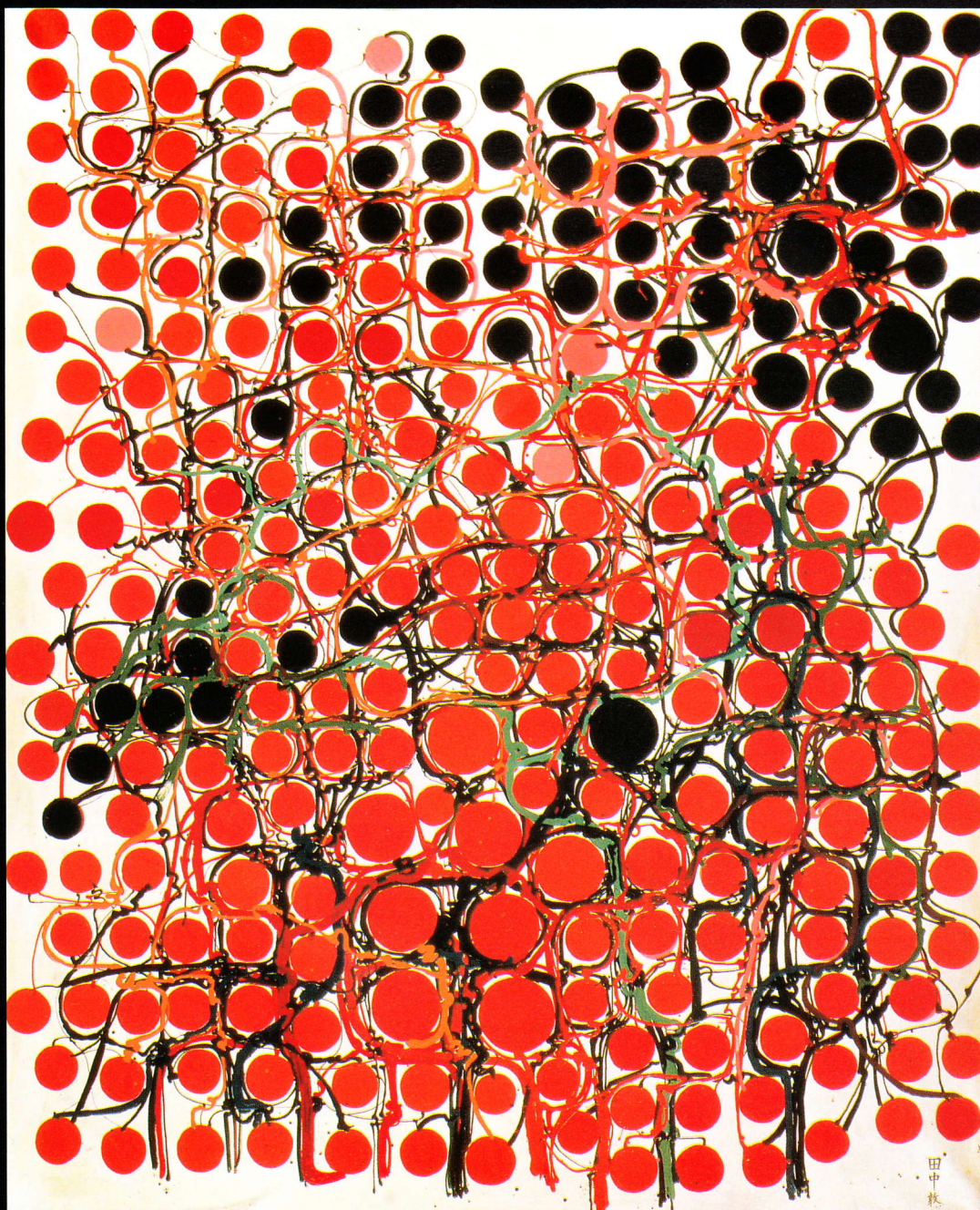


特別展

〈具体〉未完の前衛集団

—兵庫県立近代美術館所蔵作品を中心に—

主催—渋谷区立松濤美術館 協力—兵庫県立近代美術館



田中敦子「作品」1958年

1990年4月10日(火)—5月27日(日)

休館日 4月16日月、23日月 / 5月1日火、2日水、7日月～10日木、13日日、14日月、21日月 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
入館料 一般個人200円(160円)/小・中学生100円(80円) ()内は20人以上の団体割引料金

渋谷区立松濤美術館

〒150 渋谷区松濤2-14-14 TEL.03-465-9421

戦前から活躍していた画家・吉原治良の周辺に、戦後、若い意欲的な作家たちが集まり、彼に師事するグループが形成されました。彼らが自ら「具体」と名乗った1954年、具体美術協会は発足したのです。

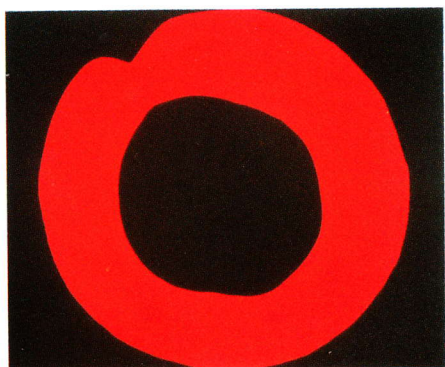
以後彼らは機関紙「具体」の発行、「真夏の太陽にいとむモダンアート実験展」、東京および関西での「具体展」、「舞台を使用する具体美術展」など、グループとして新鮮な活動をめざましく展開してゆきます。

当時は、戦後の精神的な混乱を体験した表現者たちが、さまざまなグループを結成し、新しい価値を求めた時期でした。シュルレアリスムをはじめとする海外の美術の動向や、社会的な問題意識がクローズアップされる中で、具体は「絶対に人の真似をしない」を合い言葉に、それらを乗り越えた視点を持ちえたのだと言えます。吉原はメンバーに、理論的にも様式的にも統一された完成を求めたわけではありませんでした。彼らは「具体美術宣言」に明言されている「物質と精神の

握手」を出発点として、素材・制作方法・発表形式等すべての面から根本的に枠組みを変え、未分化の自由な表現を生み出しました。フランスの批評家ミッシェル・タビエを通じて、彼らが国内外で高く評価された点もここにあるでしょう。

吉原治良の死によって1972年に解散されるまで、具体の活動は幾つかの局面を経てきましたが、ことにその初期の実験性は世界の美術の先駆者として認められ、近年もあいついで海外で展覧されています。

本展では結成から1965年までの具体の初期活動に焦点をしぼり、関東ではじめて具体を本格的に紹介するものです。旧山村コレクション25点を含む兵庫県立近代美術館所蔵作品を中心に、代表的な18作家の絵画・再制作の立体作品計55点を展覧し、ビデオ・記録写真などの資料を加えて、具体初期の成果を概観します。



吉原治良「作品」1965年



白髪一雄「作品II」1958年



元永定正「タビエ氏」1958年



嶋本昭三「作品」1960年



上智智祐「作品」1958年

■ 出品作家

吉原治良	田中敦子	浮田要三	向井修二
嶋本昭三	元永定正	上智智祐	前川強
白髪一雄	吉原通雄	鷺見康夫	松谷武判
白髪富士子	村上三郎	正延正俊	
金山明	山崎つる子	吉田稔郎	

座談会

- 1990年4月29日(日)/午後2時より
「具体の頃——その状況と成果」
白髪一雄(画家)、元永定正(画家)
針生一郎(美術評論家)

映画会

- 1990年4月15日(日)/午後2時より
実験映画：嶋本昭三「具体映画」(1958年)、
「顔」(1961年)
元永定正「ピチピチ」(1972年)
- 1990年5月20日(日)/午後2時より
実験映画：大林宣彦「喰べた人」(1963年)
高林陽一「砂」(1963年)

美術相談

- 1990年4月22日(日)/午後1時～4時
相談員：西嶋俊親氏(洋画)、荒井朝吉氏(日本画)
- 1990年5月6日(日)/午後1時～4時
相談員：磯村敏之氏(洋画)、畑農照雄氏(版画)



渋谷区立松濤美術館

渋谷駅下車徒歩15分、神泉駅下車徒歩5分